

街道を歩く

東海道駿河以東：09 笹原新田—山中新田—箱根—旧道資料館

箱根宿 三島宿から3里28町
本陣6、脇本陣1、問屋2、旅籠72。町並み8町5間
名物 山椒魚、寄木細工
3代将軍家光が川越城主松田正綱に宿を開かせた。
小田原と三島から町民を50軒づつ移住させ街づくり
する。はじめ元箱根辺りに宿を計画したが箱根権現
の門前町であったので西の現在地に移したという。
本陣などもあったが大名の宿泊は両麓の小田原か
三島で休憩が主だったという。

箱根越え
古くから開かれたのは御殿場から乙女峠、碓氷峠で越え
あった。峠を2つも越えなければならぬ難路であった。
奈良時代になって官道として整備されたのが足柄峠越え。
延暦21年(802)富士山の大噴火で通れなくなり箱根山中に
官道が造られた。まもなく足柄峠も開通するが盛ん利用に
利用された。三島から箱根峠、芦ノ湖畔、芦の湯、高鷲山
尾根伝いに浅間山浅間山、湯坂山から湯本に至る道。
十六夜日記の阿仏尼はこの道で鎌倉に行っている。
江戸時代になって箱根宿、畑宿、須雲川沿いに湯本の道
が整備された。



本丸跡



障子堀跡

山中城跡
築城は永禄年間(1558-69)北条氏康といわれる。
天正18年(1590)豊臣秀吉の小田原攻めの最前線
基地となる。北条左衛門大夫氏勝、間宮豊前守が
守り、豊臣方は関白秀次、中村一氏が攻める。
激戦の末、豊臣方の一柳伊豆守、北条早方の
間宮豊前守が討死、氏勝敗走で落城。
城跡には畝堀、障子堀、土塁、櫓跡など残る
三の丸跡**宋閑寺**には北条方の守将松田康長、
副将間宮康俊ら北条方の死者の墓。一柳直末ら
豊臣方の墓がある。



駒形諏訪神社

祭神建御名方命、日本武命
山中城本丸守護神
樹齢5-600年の大カシ
山中城跡 宋閑寺
山中新田 農協前



松谷久四郎は一説によると西国大名の
剣術指南役であった。大酒飲みが災いして
国外追放となった。箱根に来て雲助の仲間
になる。大酒飲みながら剣の腕がたち、読み
書きができることから雲助たちに親分のように
慕われたという。久四郎の死後、雲助たちが
金を出し合い徳利を刻んだ墓を建てたという。



箱根馬子唄の碑

[弥次・喜多] 兜石辺りで
"たがこに脱捨おき
かぶといかゝる難所に
降参やして
休息舎 井上靖" 北斗閣干碑"

バス停接待茶屋

徳川有徳公遺跡碑 接待茶屋跡

石原坂 山中一里塚

両側の篠竹の中を
潜るように

念仏石

大枯木坂

山中新田

農協前

小枯木坂

雲助徳利の墓

バス停山中

芭蕉句碑

見晴学園

箱根越え

箱根馬子唄の碑

箱根越え

箱根越え

箱根越え

箱根越え

箱根越え



箱根神社
祭神 瓊瓊杵尊 木花咲耶姫命
天平宝字元年(757)に万人上人創建。
元箱根
権現坂
箱根馬子唄の碑
石畳
甘酒茶屋
旧道資料館
お玉ヶ池
親鸞上人石碑と笈の平
親鸞と弟子の
悲しい別れの場

身代わり地蔵
梶原景季が父景時と間違えられ
背後から切りつけられた時身代
わりとなったとされる地蔵。
美術館
箱根旧道
杉並木
恩賜箱根公園
資料館
箱根関跡
芦ノ湖
箱根関跡
資料館
本陣"はふや"跡現箱根ホテル
[弥次・喜多]
関所を過ぎて
"春風の手形をあげて
君が代の戸さゝぬ
関をこゆるめでたさ

石畳
箱根路はローム層のためすべりやすかった
ので箱根竹が敷かれていた。
石畳は一度に敷かれたものでなく最初は延宝
8年(1680)、それから順次、文久2年(1862)
家茂が上洛するときに完成されたという。

甘酒茶屋
赤穂浪士の神崎与五郎が江戸に向かう途中、
酒癖の悪い馬子に絡まれ股くぐりのはめになり
馬子に詫言状を書いたとされる茶屋。
(事実は三島宿、大高源吾のようである)

お玉ヶ池
伊豆大瀬村(現沼津市)の百姓太郎兵衛の娘、玉は
江戸の奉公先から飛び出し国元に帰る途中、箱根
関所の柵越えで捕まり池の近くで処刑される。
当時は"奈津那ヶ池"と呼ばれていた。

箱根関所
設置は定かではないが元和4年(1618)といわれている。
東海道ではここ箱根と新居宿に置かれた。関所の任務は
"入り鉄砲と出女"、江戸への鉄砲の持ち込み、江戸から
大名の子女の脱出の取り締まりであった。幕藩体制の安定
と新居関所の機能強化により寛永10年(1633)から箱根は
女改めが主体となった。仙石原、矢倉沢、根府川に裏関所
番所が置かれ関所を補完していた。管理は小田原藩が行った。
通行時間は午前6時から午後6時まで、通行には往来手形と
関所手形が必要。前者は檀那寺、住居地の役人から、住所、
用件、宗旨など書いたもの。庶民を対象とした。
誰もが持つものが関所手形。身分によって発行元が異なった。
江戸の町民は 留守居役、京都は京都司所代、地方は領主、
武士は藩の留守居役など。関所手形はグループで一枚、通過
する関所の数だけ必要であった。

箱根路を往来する人々の労をねぎらうべく
お茶を接待する所。文政期(1819-30)
江戸商人加勢屋与兵衛が始めたのが最初。
背戸末期の思想家大原幽学の門弟達が明治
になって復活、千葉の鈴木利喜三郎とその
子孫が昭和45年(1970)まで続けた。
近くには徳川有徳公遺跡碑がある。

箱根路を往来する人々の労をねぎらうべく
お茶を接待する所。文政期(1819-30)
江戸商人加勢屋与兵衛が始めたのが最初。
背戸末期の思想家大原幽学の門弟達が明治
になって復活、千葉の鈴木利喜三郎とその
子孫が昭和45年(1970)まで続けた。
近くには徳川有徳公遺跡碑がある。

箱根路を往来する人々の労をねぎらうべく
お茶を接待する所。文政期(1819-30)
江戸商人加勢屋与兵衛が始めたのが最初。
背戸末期の思想家大原幽学の門弟達が明治
になって復活、千葉の鈴木利喜三郎とその
子孫が昭和45年(1970)まで続けた。
近くには徳川有徳公遺跡碑がある。